

月刊

まち・コミ

2月号

1998年2月24日発行

発行

阪神淡路大震災まち支援グループ
まち・コミュニケーション

〒653-0014 神戸市長田区御蔵通 5-5 兵庫商会 3F

TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961

e-mail koitirou@mvi.biglobe.ne.jp

URL http://sakuraia.c.u-tokyo.ac.jp/mikura/



開催決定!

みくら五の五 交流会

～ボランティアから明日へのメッセージ～

振り返れば、震災直後の2月に“ピースポート”が緊急救援の活動拠点として、かの地神戸市長田区御蔵通 5-5 の兵庫商会の本社跡地をお借りし、プレハブを建ててから3年が経ちました。

その間、“すたあと長田”“SVA”“阪神・淡路大震災「仮設」NGO 連絡会”“公的支援実現ネットワーク”“ひまわりの会”“春風会”など、10 あまりのグループが、事務所を置いて活動を行ってきました（現在は8グループ）。そして、これまでに短期～長期を合わせて、何百人、いや千人以上というボランティアが、ここに係わってきたのではないのでしょうか？

そして、これだけ多くのボランティア・グループが、長期的に活動することができたことの意味は、計り知れないものです。各自の活動はもちろん、いくつかの団体で大きなイベントなどが行えたこと、また多くの人間が宿泊できるということ。資金力もない民間グループが力を合わせたり、多くの人に被災地で活動し学び取ってもらったりするために、この様な環境がどれだけ重要なことか！

しかし、来年度より、この土地、この地区の被災住民の方々が共同で住宅を建てる土地の一部となるため、各ボランティア・グループは、街の復興のために、この場所をお返しすることとなりました。まだ行き先の見つからないグループもたくさんあります。

しかしながら、この地に縁の深かった関係者の旧交を温め、また地元感謝の意を表す事を目的として「みくら五の五 交流会 ～ボランティアから明日へのメッセージ～」を開催致します。ぜひ、ご参加下さい。



御蔵通5-5のプレハブ群
ボランティア達の活動拠点

※なお、「まち・コミュニケーション」は、来年度も引き続き、そのまま同じ兵庫商会内の事務所で活動させていただけることとなりました。

参加には事前の申し込みと参加費用
が必要です。詳しい内容は、関係者の方
に追ってお知らせいたします。

もくじ

P 1 「みくら5-5 交流会」開催のお知らせ

P 2 焼け跡のくすぶり ～五回～

神戸世相～ぎのう・きょう～

P 3 御蔵の街かど ～御蔵遺跡考～

まち・コミ おすすめ BOOKS

P 4 まち・コミ今月も行く／募金・協力のお礼
カンパ・募金のお祝い／編集後記

※「震災・まち・ひと 第3回」は、今月はお休みさせていただきます。

焼け跡のくすぶり 五回

【人のふり見て我がふり直せ】

先日、私の所属する兵庫県自動車部品商組合の総会で、福山の鞆の浦に行った。万葉の時代から歌に詠まれたこの地は、江戸時代の朝鮮通信使も停泊した港まち。網網でも名高く、幕末の三条実美をはじめとする七郷落ちやら、坂本龍馬の率いる「いろは丸」が紀州藩船「明光丸」と衝突。曳船中に「いろは丸」はこの海に沈み、龍馬と海援隊はこの地に宿泊した。山と海に挟まれた猫の額ほどの、この漁師まちの街並みが、何とも言えぬ懐かしさを醸し出しているのである。白壁造りや焼き板壁造り、格子造りの家屋が並び、車の通らぬ狭い露地が、坂道が、縦横に走っている。

その狭い通りを歩いてみると、戦中戦後の一時期を過ごした九州の田舎を思い出した。その頃広いと思った通りが、実は狭い通りで、醤油屋があったり、豆腐屋があったり、の情景がダブって見えてきた。そして、長田御菅地区の震災前に行き着いた。

車を主人公にする広い通りが要るのか。人を主人公にする、傘が触れ合う程の狭い道にするのか。必要に応じて偏らずに両方を取り合わせていくべきだろう。科学技術を進歩発展させたのは、人類から飢え、貧困を、痛苦をなくす為ではなかったか。でも、いくら進歩させても、それらはなくなるどころか、大変なスピードで、環境破壊や公害、高齢化問題を引き起こした。

人々は、これ以上便利で物質に囲まれた生活より、自分が納得できる生き方を求めている。理屈ではなく、将来に対する安心を求めている。もうこの辺で、ひと休みしてもいいんじゃないか。それを震災が教えてくれたんじゃないだろうか。

鞆の浦は、そんなことを気づかせてくれた。

（株）兵庫商会 田中保三

～神戸世相～きのう・きょう

◎年々広がる生活格差、仮設 4300 世帯が保護受給 (98.2.7 読売新聞) 仮設入居世帯の 15.9%が保護世帯(4292世帯)。県内全体で見た受給世帯割合1.5%と比べると、10倍に。地域別では、仮設の最も多く残る神戸市内で17.7%、同市を除く9市10町で12.2%、被災地外で12.1%。

◎公営住宅再募集 700 世帯応募せず、神戸市 3900 世帯分受け付け (98.2.7 読売新聞) 被災者向け公的賃貸住宅の第4次一元募集に漏れた仮設住宅入居者対象に神戸市が再募集。倍率は旧市街地で最高342倍。逆に垂水・須磨区など郊外で未応募が目立った。

◎協働の実践アピール、まちづくりテーマセミナーや見学会、東京からも学生、長田・真野 (98.2.16 神戸新聞) 14、15日「真野ふれあいの集い—震災復興、21世紀のまちづくりに向けて」が開催され、震災後のデイサービス、児童館、長屋共同建て替えの完成など、まちづくりの取り組みが披露された。全国から150人以上の専門家や学生が参加。

◎芽吹くのか再生の春、三宮・元町のショッピング街、改築・再建ラッシュ続く (98.2.18 神戸新聞) 大丸神戸店は売り場面積、ブランド数ともに震災前の規模に完全復活。三宮地下街「さんちか」も 16 日から全面改装。三宮センター街は3月下旬にアーケードが復活予定。関係者は「神戸商圏全体として売り上げ7、8割の復興途上」と認識、大阪に流れた客を呼び戻すため「これからが正念場」とみている。

◎公的支援、自民案容認できず、超党派議員と市民グループ、そ及問題で声明 (98.2.19 神戸新聞) 「災害被災者等支援法案」(市民立法案)の成立を目指す議員側は、公的支援の原則として①生活基盤回復の支援に十分な給付額②中堅所得層を含む幅広い給付対象③阪神・淡路大震災の被災者への適応、を指摘。「最高給付額 100 万円」「阪神大震災にそ及しない」点で、自民党が国会に提出予定の「被災者生活再建支援法」を容認できないとした。ただし、自民党首脳は既存の阪神・淡路大震災復興基金を活用し、法案と同水準の被災者支援を新たに検討する考えを示している。(98.2.10 神戸新聞)

御蔵の街かど

～さあ、皆さんと一緒に?!

御蔵遺跡考～

「出た出たっ!」「何が?」

「出たんやで!!」「だから何が?」

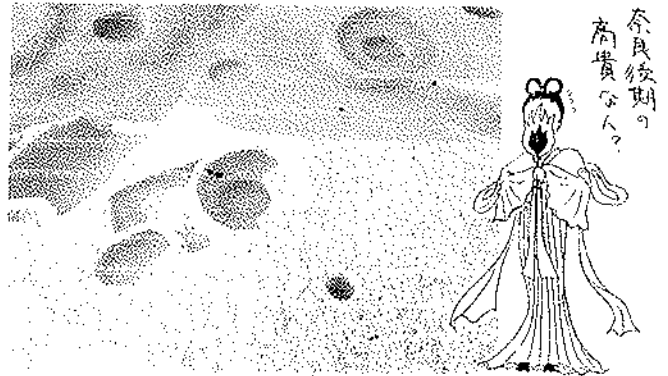
「御蔵遺跡!」「・・・?」

2月6日、現在受け皿住宅建設のため、埋蔵文化財調査が行われている御蔵5丁目の日本生命ビルの南側で、奈良時代後期から平安時代初期の頃の住居跡や瓦・土器が発見され、住民見学会が開かれました。

約400㎡の発掘場所は約50cmほど掘られ、底には大小200を越す柱穴があり、大量の土器や瓦・しかの角などが掘り出されたのでした。奈良時代といえればおよそ1200年前のこと。そして、これだけしっかりした柱穴や、当時は役所や寺院でしか使われていない瓦が出てきたことなどを考えると、「有力者が暮らす中心的な集落だったのでは」とのこと! 約40名程の地区のみなさんも、子供と同じように、わくわくした感じで、学芸員さんの説明に聞き入っ

ていました。洗いたてでみずみずしい素焼きや、陶器の器の一部を見ながら、話は弾みます。「昔はたんぼばかりだと思ってた。」「御蔵というぐらいの名前の土地やからねえ。」…地層を見ると、奈良時代の層の上に、20cmほど同じ様な色の層が重なり、その上に田圃の底に水が漏れないように敷く粘土の様な層と、田圃のぬかるみの層、そして戦災にあった時の焦土とがれきの層、戦後建てた建物のコンクリート、震災時の堆積物……と歴史を雄弁に物語っておりました。

さらに下の層にもありそうなので、もう少し調査は進むそうです。楽しみ!



▲御蔵遺跡、建物の柱穴

まち・コミ おすすぬ BOOKS

『 悩み・手さぐり～阪神・淡路大震災ボランティア活動記録～ 』

編集・発行 姫路こころのケアネットワーク

「活動は、聴くことから始まる」「私たちの出来ることは、私たちの出来ることだけ」——『最西の遠隔地仮設』である姫路市内の仮設住宅での、2年半に渡る支援活動の記録集。代表である岸岡氏のメモからは活動当時の「息づかい」が聞こえてくる。苦悩、発見、疑問、喜び……。『人のこころを助けるボランティア』とは何かを考える為の必携の書。

◆定価 2000円 送料 450円

◆振込先 さくら銀行 姫路市役所出張所/口座番号;普通 461-3204512
名義人;姫路こころのケアネットワーク



『 共生社会への賛歌～ことばと写真による阪神・淡路大震災～ 』

編集・発行 都市生活地域復興センター

共生へのとびらをたたく音が聞こえる……。

福祉・法律・企業・農業など様々なジャンルの方々、震災から学び取った「共生の思想」について語る。全32ページ・フルカラー、豊富に掲載された写真も秀逸。「都市生活地域復興センター」は、西宮に拠点を置き、震災直後から活動を継続している

◆頒価 1000円 (かぶ込み)

◆問い合わせ 都市生活地域復興センター

TEL (0798)36-6679 FAX (0798)36-5114



まち・コム の活動

1月号の「まち・コムトピックス」でとりあげたように、中旬の「全国ボランティア研究集会」「御菅地区慰霊法要」「共同化住宅建設組合設立」に奔走した1ヶ月でした。2、3月は決算、助成金申請、記録集作成、そして交流開催準備など、地道な活動が中心となる予定です！

1月

- | | | | |
|-----|---|-----|---|
| 5日 | 事務所仕事始め | 17日 | 御菅慰霊法要 |
| 6日 | みくら5・6・7わが街の会 | 19日 | 共同化住宅建設組合設立
御蔵5・6丁目まちづくり協議会役員会 |
| 10日 | 共同化準備会 | 20日 | シンポジウム「高齢化社会における
コミュニティと新しい住まい方」 |
| 11日 | クリーン作戦 | 24日 | 自治分権を語る京都懇談会 |
| 12日 | 御菅西地区(=御蔵5・6丁目)
杭打ち式
シンポジウム「大震災3年の教訓」 | 26日 | 共同化組合 |
| 15日 | 月見山自治会館で西須磨まちづくり
懇談会交流会 | 28日 | 大阪自治労松尾先生とラオスの
研修生来所
御蔵5・6丁目まちづくり協議会役員会 |
| 16日 | 全国ボランティア研究集会
市民とNGOの防災フォーラム | 30日 | 市民活動発展の基盤を考える
シンポジウム |

募金・協力

ありがとうございました！(敬称は略させていただきます。)

●募金●

- 岩生光司(大阪府)
- (株)森長組神戸支店(神戸市)
- 下関唐戸魚市場(株)松村久(山口県)
- 中家美子(東京都)
- 田中弘来(福岡県)
- 寿松木宏毅(秋田県)
- 文貞実(岐阜県)
- 高森一徳(神戸市)
- 岩崎美織(神奈川県)
- 渡戸一郎(東京都)
- 中村寛(東京都)
- 茅野俊幸(長野県)

- 柳生利夫(埼玉県)
- 澤田修一郎(京都府)
- 植田修克(神戸市)
- 服部鋭二郎(東京都)
- 和田春子(神戸市)
- 大東石油(株)大久保威三夫(神戸市)

●協力●

- 名淵良隆(東京都)
- 神戸地域問題研究所 宮西悠司(神戸市)
- 調布を耕す会 大脇正昭(東京都)
- 曹洞宗国際ボランティア会(東京都)
- (株)兵庫商会

通信費カンパ・募金のお願い & 定期購読のすすめ

現在、まち・コミュニケーションでは、活動に必要な資金への募金のお願いをしております。台所事情は楽ではありませんが、活動に当たっては、通信費はもちろん、事務所運営維持費や消耗品費など、支出の避けられないものが多々あります。今後の被災地のまち復興のための活動へのご支援を、よろしくお願いいたします。

【郵便振替口座番号】00950-3-42788

【口座名称】「まち・コミュニケーション事務局」



また、この通信紙を継続的にお読みになりたい方は表の事務所連絡先までご連絡下さい。

編集後記

- ★東京の友人と、時折強く降る雨の中、「甘辛しゃん」の舞台、灘の酒蔵の街を歩きました。震災前の趣きを知らない私。もう少し材料を得て、また春の日に歩きたい。(浅野)
- ★もうすぐ待ちに待った春ですネ。僕はついにプレハブの部屋に別れを告げ、部屋を借りることになりました。生活用品を持って余している方、いらっしゃいませんか？(小野)
- ★長野オリンピック、堪能されましたか？ポブスレーの選手のヘルメットが、「4つ並んだチョコボール」or「枝豆」のように見えてしまった不謹慎な私であります。(酒井)